

会 議 録

会議の名称		令和８年度 第１回 福津市立図書館協議会
開催日時		令和８年７月２日（木） 午後２時００分から 午後３時１５分まで
開催場所		福津市立図書館 研修室２
委 員 名		（１） 出席委員 安徳委員、河井委員、田島委員、立石委員 立山委員、安河内委員、山元委員 （２） 欠席委員 阿部委員、市川委員
所管課職員職氏名		芹野（郷育推進課長）、長友（市立図書館長） 涌（カメラアステージ図書館主任）、田中（市立図書館サービス係長）、 堤（市立図書館管理係長）
会 議	議題（内容）	① 令和７年度図書館の事業報告及び利用状況について ② 令和８年度図書館の事業計画について ③ その他
	公開・非公開の別	☒ 公開 ☐ 非公開 ☐ 一部公開
	非公開の理由	
	傍聴者の数	０名
	資料の名称	① 会議次第 ② 年報統計 ③ 利用者アンケート結果 ④ R７事業報告・R８事業計画（市立） ⑤ R７事業報告・R８事業計画（カメラア） ⑥ 福津市図書館の経営方針策定の趣旨
会議録の作成方針		☐ 録音テープを使用した全文記録 ☒ 録音テープを使用した要点記録 ☐ 要点記録 記録内容の確認方法 会議出席委員による確認 内容に相違ありません。 委員
その他の必要事項		

協 議 内 容 （発言者、発言内容、審議経過、結論等）

1. 開会のあいさつ
2. 辞令交付（阿部委員欠席のため割愛）
3. 会長あいさつ
4. 報告・協議事項

協議事項① 令和7年度図書館の事業報告及び利用状況について
（事務局）資料に沿って概要説明。

（田島委員）8ページの年齢区分別の利用状況を見ると、30歳以上の年代で約9割を占めている。問題は一番本を読んでほしい13歳から18歳の年代がわずか1%程度にとどまっている。スマートフォン等にかまけているのだろうか。

（河井会長）青少年（ヤングアダルト）向けのサービスについては、もう少し力を入れたほうがいい。

（事務局）10代はスマートフォン等で電子書籍に接していることも多いかもしれない。本市でいえば電子図書館の利用が挙げられる。

（河井会長）電子書籍の数は入っていないのか。

（事務局）貸出利用者数には入っていない。6ページの下部で、電子図書館の利用状況を挙げている。実は、本市の電子図書館の利用者は、小学生が圧倒的な数を占めている。おそらく授業等で利用していると思われる。

（河井会長）そういったデータで子ども達の電子書籍の利用実態が分かる。

（山元委員）6ページの閲覧者の内訳を出してほしい。小学生が多いというのは、おそらく大人からの働きかけで使っているということだろうから、中・高校生も学校等の授業で使ってもらう等、いろいろな方面でアプローチして利用者数を増やすという方法もある。

（事務局）電子図書館の学校ごとの閲覧数、貸出数も集計している。図書館からも学校に働きかけたり、学校側が抱える課題等について調整、協議したりしながら課題解決に進めたい。

（山元委員）高校にはID配布はしているのか。

（事務局）小・中学校には配布しているが、高校は配布していない。

（河井会長）高校生くらいになると電子書籍というよりは、図書館に興味を持たせるため、子ども達を巻き込んでやらないとなかなか成果が上がらない傾向なので、含めて検討していただきたい。

(立山委員) 中・高校生等については、本を借りるのも大事だが、課題等興味があることを調べるときに図書館の上手な利用の仕方を導くことで利用が増えると思う。

(河井会長) 今、AIが問題になっているが、AIが言うことがすべて正しい訳ではない。自分達に有用な情報をどう取り込むかを、一つの情報検索の方法として伝えていくことを図書館と学校等が連携してやっていくのもこれから先、必要なことではないかと思う。

(安河内委員) 私が高校生の時は、図書館が涼しいので勉強するのに利用していた。利用するうちに図書の世界が広がり図書館が大好きになった。図書館という場が集う場だったり、ちょっと立ち寄れるような場所だったりすると行きやすいのではないかと思う。それと、郷づくりの会議等に参加して感じたことは、地域には地域のニーズや発想があるので、タイアップがあると活性化していくと思う。

(山元委員) 高校生問題だが、まずは「憩いの場」、「集まる場所」が必要だと思う。今回のアンケート結果を見ると、「今後もっと取り組んでほしいこと」で、『学習室の設置』が第2位。学習室があれば間接的に高校生が来る。ついでに本を借りようかなと。このことが利用率の低さという長年の問題の解決方法になるのではないかと思う。それと、今、北九州市にはヤングリーダー養成講座のようなものがあり、中・高校生に来てもらって積極的な生徒達が言ってくれるニーズを吸い上げて、ニーズ通りの図書館にするという事業があるのでやってみてもおもしろいと思った。

(河井会長) 中・高校生に対しては主体性を生かした事業を企画していくのがいいかなと思う。

協議事項②令和8年度図書館の事業計画について

(事務局) 資料に沿って概要説明。

(河井会長) 青少年対象の事業を何か一つでも取り組みを追加してほしい。学校と協議をしたり教育委員会で話し合ったりかなり準備をしないと進められないこととは思うので、来年度向けに今年度は準備期間ということでもいいが検討してほしい。

試験的にどこかの中学校とのモデル連携をすると取り組みやすいかもしれない。それが軌道にのってから、高校生に対象を広げて

みるといいのではないか。

（立山委員）市で郷育カレッジをしているが、例えば夏休みのイベントで講座を一つ開催する等の方法もある。

（事務局）郷育カレッジの講座の一つで、図書館と連携したメニューがある。ただ参加者は青少年ではなく、大人がほとんどである。小学校や中学校は比較的学校と連絡が取りやすいが、今まで直接高校との連携はないため、取り組み方等参考になるような事例があればご教示いただきたい。

（山元委員）中学校で部活動の地域移行の流れになっているが、文化系部活動の受け皿に図書館をとっているのはないか。

（事務局）今後、学校からであったり、逆に図書館からの提供であったり、というのは可能性としてはある。

（安河内委員）今、宮司地区に新設中の小学校において、学校図書館の図書を選書すると思うが、例えば高校生にも小学校の時に読んで心に残っているおすすめの本を選んでもらう等、もう一回本を読んだ時の楽しさを思い返すきっかけに利用できるものがあってもいいのではないか。人が集う材料にするのはおもしろい。市立図書館や学校図書館の司書だけでなく、中・高校生や保護者のかたも選べるようにすると、いいきっかけになって「じゃあ今度図書館行こうか」というように発展したりするかもしれない。

（河井会長）最初のアプローチとしてはやりやすいかもしれない。

（山元委員）いいアイデアと思う。具体的なアプローチとしては。

（河井会長）検討してもらおうということで。やはりきっかけを作っていってというのは大事だと思う。

その他 福津市図書館の経営方針策定の趣旨

（事務局）資料に沿って概要説明。

（河井会長）この経営方針について、上位計画の次期計画が令和9年度に策定される予定なので、それを踏まえて、修正するかしないかも含めて考え直すことにする。その時点までこのまま行きたいということではよろしいか。

委員全員了承。

5. 次回の日程について

（事務局）第2回目は11月頃を予定している。

以上